

令和 8 年 2 月 1 7 日

各 位

公益財団法人 大山健康財団
理 事 長 神 谷 茂

令和 7 年度「第 52 回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第 8 回竹内勤 記念国際賞」受賞者並びに「第 52 回学術研究助成金」受贈者決定のお知らせ

大山健康財団は、このほど令和 7 年度の「第 52 回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第 8 回竹内勤記念国際賞」受賞者各 1 名、並びに「第 52 回学術研究助成金」受贈者 10 名を下記の通り決定しました。

「大山健康財団賞」は、発展途上国で長年医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者に賞状、記念メダル、副賞を贈呈するもので、「大山激励賞」は、発展途上国で短期間ながら医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者で、今後とも発展途上国においてなお一層の活躍が期待される方に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

「竹内勤記念国際賞」は、故竹内勤前理事長の遺徳を永く記念するため、平成 30 年度に新しく創設されたもので、発展途上国において長年、熱帯医学、寄生虫学の研究に貢献し、今後とも大いに活躍が期待される若手の研究者に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

また、「学術研究助成金」は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症（一般細菌感染症、真菌感染症、ハンセン病、リケッチア症、寄生虫病）に関する基礎的あるいは臨床的研究及び疫学的研究に従事されている若手研究者より申請のあった研究課題の中から選考された研究課題に対し助成金を贈呈するものであります。

なお、各賞並びに助成金の贈呈式は令和 8 年 3 月 19 日（木）午前 11 時 30 分から霞が関コモンゲート西館 37 階 霞山会館（東京都千代田区霞が関 3-2-1）で執り行います。

記

令和 7 年度「第 52 回大山健康財団賞」

（敬称略）

【受賞者】 なかむら やすひで 中村 安秀

公益社団法人日本 WHO 協会 理事長
大阪大学 名誉教授
医師（小児科）（満 73 歳）

【業績内容】

中村安秀氏は、医療分野の国際協力活動の過程で、日本で用いられてきた「母子健康手帳」を世界に普及させた小児科医である。

中村氏は、1986 年、国際協力事業団（現 国際協力機構 JICA）の母子保健専門家としてインドネシア北スマトラ州に赴き、乳児死亡率を下げるために子どもたちの健康改善に取り組まれた。また 1990 年には国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）にてアフガン難

民保健医療担当官として尽力された。

1997年にはインドネシア保健省によって同手帳の配布の義務が明文化されることとなり、そうした制度化の結果、オーストラリアやアメリカなどのプロジェクトにおいても同手帳が取り込まれるなど、他国による国際協力に対しても大きな影響を与えた。

2021年、中村氏は公益社団法人日本WHO協会理事長に就任され、WHO（世界保健機関）との連携のもとで国内外において保健増進活動を推進されている。

中村安秀氏の「母子健康手帳」の国際的普及を中心とする保健医療分野での活動は、地域研究にもとづいた実践における普遍性をはっきりと示しており、大山健康財団賞にふさわしい。

令和7年度「大山激励賞」

(敬称略)

【受賞者】 ^{さんじょうば} 三條場 ^{ちず} 千寿

東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻 准教授
農学博士 (満55歳)

【業績内容】

三條場千寿氏は、人獣共通感染症および節足動物媒介性感染症の制御を目指す研究に取り組み、その成果は国際的に高く評価されている。博士論文「リーシュマニア原虫無鞭毛型に関する研究」において作成されたモノクローナル抗体の一つが「皮膚型リーシュマニア症 (CL) の簡易診断キット」として採用され、CL診断キットとして世界の臨床現場で広く用いられている点は、若手研究者として特筆すべき社会実装の成果である。

そして途切れることなく世界各地で疫学・生態・分子レベルの総合的調査を情熱的に展開され、卓越した One Health (ヒトと動物、それを取り巻く環境を包括的に捉え、感染症などの分野横断的な課題の解決のために活動する概念) 研究者としての基盤を築いて来られた。

現在は、SATREPS (地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム) トルコプロジェクトの研究代表者として、媒介昆虫・病原体の伝播サイクル解明、分布予測モデルの構築、新規分子診断技術や耐性解析の開発など、多面的で高い国際的インパクトをもつ成果を挙げられている。

これらの業績は、リーシュマニア症をはじめとする NTDs (顧みられない熱帯病) 対策の国際的潮流と SDGs の理念に合致し、将来のグローバルヘルスを牽引する研究者として大いに活躍が期待される。

令和7年度「第8回竹内勤記念国際賞」

(敬称略)

【受賞者】 ^{さいとう} 齊藤 ^{のぶお} 信夫

長崎大学熱帯医学研究所アジア・アフリカ感染症施設ケニア拠点 准教授
医師 医学博士 熱帯医学修士 内科認定医 日本内科学会総合内科専門医
日本感染症専門医・指導医 (満47歳)

【業績内容】

齊藤信夫氏は、2010年9月から2011年3月の間、ミャンマー難民に対して無償医療を提供するNGO タイ・メータオクリニックにて内科医師（ボランティア）として治療とスタッフ教育を実施され、特に、クリニックで初めてとなる超音波診断法を導入され、現場スタッフが自ら実施できるよう指導された。

2014年には、フィリピンのマニラに位置するサンラザロ病院にて研究検査・微生物検査室を立ち上げ、病院の診断能力向上に貢献するとともに、臨床研究の成果を多く発表されてきた。

2018年からは、JICA 専門家としてフィリピンに滞在し、狂犬病迅速診断法の導入や、情報共有システムと組み合わせたワンヘルスアプローチによる革新的対策法の開発を主導された。本対策法はフィリピン国家狂犬病対策室の承認により社会実装されることとなった。

齊藤氏は、2023年10月より長崎大学熱帯医学研究所ケニア拠点に長期赴任し、結核など臨床研究を実施されており、発展途上国で熱帯医学に貢献し、大いに活躍が期待されている。

令和7年度「第52回学術研究助成金」受贈者

(敬称略・五十音順)

氏名	所属・役職	研究課題	助成額(円)	選考分野
あいない あきら 相内 章	国立感染症研究所 感染病理部 室長	aP+OMV s を抗原とした経鼻 百日咳ワクチンの可能性の検 証	100万	細菌学
いそがい まさひこ 磯谷 正彦	名古屋市立大学大学院 医学研究科腎・泌尿器科学分野 研究員	腸内細菌を介した尿路結石の 新規再発予防法の開発	100万	細菌学
おおしろ たいち 大城 太一	北里大学 薬学部 教授	蛍光抗酸菌を用いた持続感染モ デル迅速評価系の構築と新規非 結核性抗酸菌症治療薬の開拓	100万	細菌学
かみすき しんじ 紙透 伸治	麻布大学 獣医学部 総合科学部門 教授	動物マイクロバイオーム由来 希少放線菌からの新規抗寄生 虫薬シーズの創出	100万	寄生虫学
くろだ えいすけ 黒田 英介	名古屋大学大学院医学系研 究科附属医学教育研究支援 センター先端領域支援部門 助教	母体免疫による出生早期から 子どもに感染防御能を付与す る新しい肺炎球菌ワクチンの 創出研究	100万	細菌学
さくらい たつや 櫻井 達也	東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 講師	アフリカトリパノソーマ原虫 の細胞分化を標的とした新規 疾病制御法開発の基盤研究	100万	寄生虫学

ついの やすゆき 角井 泰之	防衛医科大学校 防衛医学 研究センター生体情報・治 療システム研究部門 講師	光線力学療法による超広域ス ペクトルの皮膚感染症治療法 の実用化研究	100万	細菌学
ふるいち むねひろ 古市 宗弘	慶應義塾大学医学部 小児科学教室 専任講師	慢性肺疾患の予防を目指した 周産期ウレアプラズマ感染の 病態解明	100万	細菌学
みやざき しんや 宮崎 真也	長崎大学熱帯医学研究所原 虫学分野 助教	NanoLuc 発現レポーターマ ラリア原虫を用いた接着阻害 薬の開発研究	100万	寄生虫学
やぎ かずま 八木 一馬	慶應義塾大学医学部 感染症学教室 専任講師	ケニア共和国における非結核 性抗酸菌症の疫学的特徴の解 明	100万	細菌学
			1,000万	

以上

お問合せ先：公益財団法人 大山健康財団 事務局
〒132-0035 東京都江戸川区平井5-29-4-202
電話 03-3614-7762
E-mail: ohfin@nifty.com
URL: <http://www.ohfin.com>